

どのような分野においても、きちんと学習するためには、良書を熟読し、その著者の意図を読み取ることが大切です。したがって、本の一部だけを読んで終えることは著者に対し失礼で、なんだかほしくないと感じるのは、良心的な読書人として正常なことかと思われま。しかし、あらゆる人間にとって、その交友範囲の中には多くの大切な「それほど親しくない人達」が存在するように、それぞれの

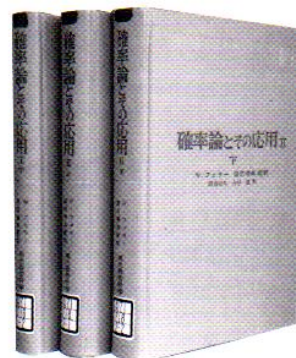
内容の全体像はわからなくても、多くの本と関わることは安定した知性を維持するためによいものだと信じます。たとえ一部だとしても、本に書かれた知的技術を発見し、それを精練することは、本に新たな価値を加える行為の一つだとも思います。ここでは、それぞれの著者に感謝しつつ、拾い読みしても面白い数学の良書を紹介しましょう。

## 確率論とその応用 I(上・下)II(上・下)

W. フェラー著 ト部舜一 [ほか] 訳 (紀伊國屋書店 1960.3-1970.2)

確率論の基本的な定理の証明と興味深い応用例が載っている古典的な教科書です。特にドモアブル・ラプラスの定理や中心極限定理の丁寧な解説はお勧めです。よく引用されるピュフォンの針の問題はIIの上巻に出ています。バスの待ち時間を問題にした「待ち時間のパラドクス」(II上)は仕事で確率を使う人は知っておくべきパラドクスです。また、数学に興味がない人でもここで挙げられた例題や演習問題を眺めることで、例えば無防備な人達をおちよくる方法(?)としても数学は優れた道具であると実感するでしょう。もっとも、「人を呪わば2つ穴」、「生兵法はけがのもと」という言葉も忘れてはならないのですが…。

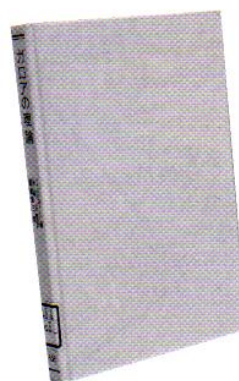
[417.1 || F18 || 1-1~417.1 || F18 || 2-2]



## ガロアの理論

I. スチュワート著 新関章三訳 (共立出版 1979.6)

ガロア理論は方程式の係数と解の関係を探ることで始まった数学の理論です。この本が目指すところは少し難しいので、全部を理解するためには多少訓練が必要です。でも、この本は色々な枝葉があり、それが魅力になっています。たとえば正17角形をコンパスと定規だけで作図する方法を解説した箇所だけでも挑戦する価値があります。(ちなみに、不器用な私はこの微妙な作図を再現することはできず、講義等に採用したことはありません。)高校で微分積分を習った人には、 $\pi$ が無理数であることの簡単な証明もあります。[411.6 || St5]



## 経営ビジネス数学：高校数学から理解して使える

芳沢光雄著 (共立出版 2003.6)

情報・経営学などに使われる数学を自力で勉強したいという人にお勧めです。一見ハウツ一本の類のような書名ですが、よく練られた教科書だと思います。級数の問題から線形計画法、グラフ理論を用いたスケジュールの問題のアプローチ等、応用数学をやさしく紹介しています。高校の参考書を片手に勉強すると、物事を数理的にとらえる感覚も身につくのではないのでしょうか。この本で興味ある分野を見つけたあと、専門的な教科書にうつるのもよいと思われます。[410 || Y94]



拾い読みして楽しい良書はまだたくさんあります。皆さんも書架を探検してそんな本を見つけてください。(経営学部准教授 山内和幸)